

演習内容

< 全コース共通講義 >

担当 山本 力 就実大学大学院教育学研究科教授 博士(心理学)
テーマ 事例報告の意義と方法：カウンセリング実践の前に

昨年度より専門コース合同の講義「事例報告の意義と方法」を開講しています。専門コースではロール・プレイから試行カウンセリングへと段階的に実践技術を磨くために、自らの試行事例を報告し話し合います。カウンセリングの「事例」とは何か、どのように報告するのか。こうした専門コースの導入と基礎・基本の事柄を分かりやすく伝えます。面接のデモンストレーションも行う予定です。

< 専門コース1 >

前期：担当 藤沢 敏幸

専門コース1では、カウンセリングのロール・プレイを反復学習します。受講生同士でカウンセラーとクライアントになって、カウンセリングのロール・プレイを20分行います。演習ではそれに基づいて、まず逐語録を作り、録音を再生しながら、全員で検討します。学習のポイントはカウンセリングの技法ですが、クライアントの持っている心理学的テーマも深めます。参加型の学習です。

中・後期：担当 古元 邦子

前期に引き続き「ロール・プレイによる演習」を行います。20分間のロール・プレイとその録音、逐語録の作成、それを基にした検討などは前期と同じです。中・後期では、前期でのペアはそのままに、役割を交代します。また、グループでの討論も導入します。傾聴技法の体験的理解を深めていくと共に「クライアントの話をどのように理解するのか？」という点にも目を向けていきます。

< 専門コース2 >

前期：担当 森田 裕司

これまでに学んだことを土台として、実際のカウンセリングに近い形で「試行カウンセリング」を実施します。具体的にはクライアント役を引き受けてくれる協力者を探し、1回45分のカウンセリングを2回実施します。カウンセリングの基本傾聴や共感的応答が、専門コース1の時よりさらに的確にできるようになることだけでなく、カウンセリングの開始から終結までをマネジメントしていく力を養うことも狙いです。

中・後期：担当 鈴木 康之

前期に引き続き、「試行カウンセリング」を行います。2回のセッションのうち1回分を逐語録に起こし、録音を再生しながら、カウンセラーの応答やクライアントの心の動きについて、詳しく検討していきます。傾聴や共感的応答をより実際の状況で体験することを通じて、その意義を確かめることができます。また、クライアントの心について仮説を立てる作業（心理力動的的理解）も少しずつ視野に入れながら学んでいきます。

< 専門コース3 >

前期：担当 小早川 久美子

いよいよ試行カウンセリングが5回連続となり、実際のカウンセリングに近づきます。毎回の試行カウンセリングを振り返ることでクライアントについての心理理解を深めるとともに、カウンセリングがどのように展開されたか、そのプロセスについての理解も深めていきます。また、試行カウンセリングの体験を今後日常生活でどのように生かすことができるかについても考えていきたいと思えます。

中・後期：担当 塩山 二郎

ここでは、これまでの技法を厳しく守るというやり方を少し緩めて、面接技法の応用編とでもいえる方法で試行カウンセリングをやっていただきます。面接の焦点をどこに置くのか、焦点がしぼれたときに明確化する技法について学習します。また、5回の面接経過を追い、どのような流れになっているかも学んでいただきます。人の無意識のうちに起こす心のおもしろさが十分に理解できるクラスとなるでしょう。

□ 最先端医療と優生思想

講師：松田 真理子 京都文教大学 臨床心理学部教授 臨床心理学博士

開講日：7月21日(日) 10:00~15:00

再生医療やサイボーグ技術、出生前診断、遺伝カウンセリングなど、現在の医療現場は最先端医療技術によって、健康長寿への道を突き進んでいます。最先端医療は我々に大いなる恩恵をもたらすと同時に、優生思想と抱き合わせの側面があり、「いのちへの本質的な尊重」が置き去りにされかねない倫理面の岐路にも立っています。これらの背景を理解しつつ、「いのち」「生きること」「死ぬこと」への思いを深めていきましょう。

□ アタッチメント・タイプの精神分析

講師：横井 公一 医療法人微風会浜寺病院 精神科医

開講日：10月6日(日) 10:00~15:00

アタッチメント・タイプは生まれて間もなくから母親と子どもの間で形成されます。そのタイプにはいろいろありますが、子どものアタッチメント・タイプは大人になってもそのまま引き継がれていくと言われていています。アタッチメント・タイプは大人の間での人間関係のあり方に影響を及ぼし、そしてまた大人とその子どもの間にも受け継がれていきます。アタッチメント・タイプをめぐる様々な問題を臨床の現場から見ていきます。

□ 学童期の子どもの心の理解と対応

講師：西村 良二 福岡大学医学部総合医学研究センター教授 医学博士

開講日：10月27日(日) 10:00~15:00

学童期は「思春期の前の凧」と言われ、人生の中でも最も穏やかな時期の1つです。しかし、親以外の同性の大人との同一化の強化や、同性の仲間とのかかわりかたを学び、友達関係を維持する力の修得や、この社会を生き抜くために必要なスキルの基礎の学習などの発達課題が待っています。そして、まもなく訪れる思春期への心の準備をしなければならない時期です。講義では子どもの心理だけでなく、家族や社会の要因にも触れます。

□ 母性への願望としての性について

講師：鑪 幹八郎 広島大学名誉教授 前京都文教大学学長 教育学博士

開講日：2020年3月8日(日) 13:00~17:00

性は人間の根源的な欲求と言えます。人間が動物として生きている限り、この動物性から逃れることは出来ません。古代から、この動物性や性の衝動性を克服しようと、さまざまな努力、また考えを発展させました。フロイトは人間の根源的な生きるエネルギーを心理的なエネルギーと想定しました。現代の心理学、精神分析学では、根源的な生(性)のエネルギーを想定して、問題を理解することはあまり人気がありません。しかし、この問題は私たちに本質的なものとして考えるべきものであると私は思っています。